

# 特集 日本型職業教育 の 未来

日本の労働市場の特徴は「就職」ではなく、「就社」する点にあると言われている。スペシャリストやプロフェッショナルとして「何ができるか」を評価する“ジョブ型”ではなく、その企業の文化や社風に合った「ポテンシャル」を重視した採用を行い、企業内訓練を経てその企業の中でゼネラリストとして成長していく“メンバーシップ型”といわれる人事システムである。しかし、グローバル化や技術革新のスピードアップ等の大きな社会環境の変化により、メンバーシップ型の人事システムだけでは、企業も対応ができなくなってきた。そこで、その領域に通じたスペシャリストやプロフェッショナルをどのように生かしていくかが、その採用や育成の在り方とともに企業の大きな経営課題となりつつある。

また、労働人口が減少するなかで、多様な人材をいかに活用していくか、という社会全体の課題もある。残念ながら、現状は社会人の学び直しの場として、大学が選ばれていると言いはない。また、専門学校では、多くの社会人が学んでいるものの、情報公開が進んでおらず、教育の質をどのように確保しているのかが外から見えずらい、という課題もある。

そうしたなか、2019年には、実践的な職業教育を行う新たな教育機関として「専門職大学(仮称)」の新設が検討されて

いる。一体、なぜ「専門職大学」は新設されるのか。その際にこれまで職業教育を担ってきた、大学や短大、専門学校の役割はどのように変化していくのだろうか。

これまで、日本ではアカデミックな教育に対して、職業教育は一段下に置かれていたと言われている。しかし、世界に目を移すと、国家単位で学位や資格等を大きな枠組みの中でそのレベルや段階を分かりやすく整理しようという取り組みが進んでおり、既に世界150カ国でそうした枠組みが導入されているそうである。

このように、日本だけでなく、多くの国で職業教育をどのように進化させ、その教育の質を保証していくのが大きな課題となっている。今回の特集では、世界の職業教育の動向を整理しつつ、職業教育の質とは何を保証することなのか等について、巻頭で改めて整理していただいた。そのうえで、検討中の「専門職大学(仮称)」について、最新動向も報告いただいた。事例では、各領域において職業教育に取り組む学校に、職業教育にかける思いと、今後の広がりについて取材した。今回の特集によって、職業教育で生じている大きな潮流をご理解いただけると幸甚である。

(本誌編集長 小林 浩)

## CONTENTS

- 6 **第三段階教育における職業教育**  
——諸外国との比較の観点から  
吉本圭一 九州大学主幹教授・第三段階教育研究センター長
- 12 **職業教育における“質保証”とは何か**  
川口昭彦 一般社団法人専門職高等教育質保証機構 代表理事  
独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 顧問・名誉教授
- 18 編集長インタビュー  
**プロフェッショナルが活躍できるダイバーシティ型経営へ**  
大久保幸男 リクルートワークス研究所 所長
- 22 **実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の検討経緯と制度化の方向性**  
塩原誠志 文部科学省 高等教育局主任大学改革官
- 27 **専門職大学院の現状と社会人大学生の拡充に向けた課題**  
乾喜一郎 リクルート「社会人&学生のための大学・大学院選び」編集長
- 32 ビューティ領域 **メイ・ウシヤマ学園**  
理論と実践の有機的結合により教育生産性を重視した専門職生涯キャリア教育
- 36 ICT領域 **コンピュータ総合学園**  
時代の変化に対応し、創造性や課題解決に情報技術を活用できる職業人を育成
- 40 食領域 **辻調グループ**  
料理の研究と教育の好循環を支える教員FDを展開